

マーストリヒト条約

欧州連合条約

マーストリヒト条約 まーすとりひとじょうやく

欧州連合（European Union：EU）の創設に関する基本条約（通称「マーストリヒト条約」）。1991年、オランダのマーストリヒトで開催された欧州共同体（European Community：EC）の首脳会議において、ECの経済・政治統合の推進を目的としたEUの創設に関する基本条約が合意され、1992年に調印、1993年11月に発効した。内容は、経済・通貨同盟の設定（通貨統合、単一通貨ユーロの発行）、共通の外交・安全保障政策（外交・安全保障における欧州一体化）、司法・内務協力（警察協力・難民対策などにおける各国協調）及び欧州市民権（自由な移動、他国からの領事的保護など）などを規定している。その後、1999年に発効したアムステルダム条約（新欧州連合条約）で強化され、2003年に発効したニース条約ではEU加盟国拡大を踏まえた改正が行われている。さらに2009年には、EUの主要機関及び政策決定過程の改革に関するリスボン条約（欧州連合条約及び欧州連合の運営に関する条約）が発効している。

<登録年月>

2014年01月
